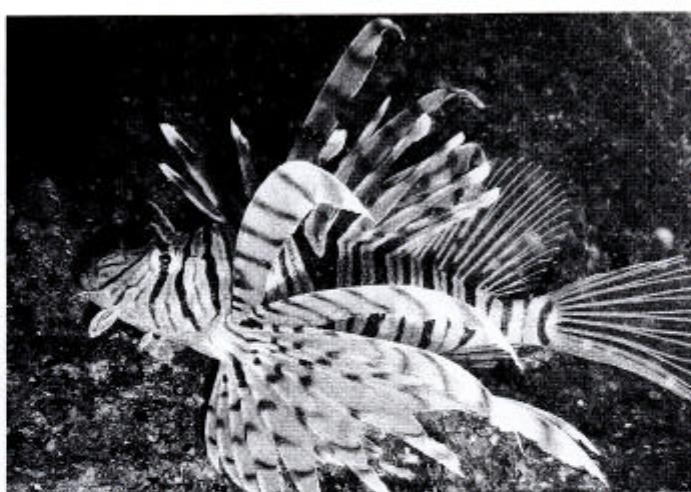


若狭湾水中散步

京大水産
実験所
益田 玲爾

ミノカサゴ

る。もちろん、冬は暖房
完備の水槽だ。機嫌の良
猛毒がある。
ミノカサゴは基本的に



越浜の水深7メートルの岩陰にいた
ミノカサゴ(体長20センチ)

から秋にかけて若狭湾にもやつてくる。冬の寒さを越せずに死んでしまうこうした南の海からの偶来者を一般に、「死滅回遊魚」と少し哀しい名で呼んでいる。

実験所を訪れる学生や見学者の間では人気者で、臨海実習に来た京大三回生の大坪さんは「こんなジユディ・オングめいた魚は初めて見た」と評していた。優雅な魚ではあるが、背びれのとげには、胸びれを手みたいにしてみると、「毒とげで刺す」と返ってくる。「毒とげはね、敵に食われにくいための武器なんだ。自分で餌を捕らえるときは、

い込んでひと飲みにして
食べるんだよ」と説明してやる。すると利発な鶴の小学生は、「海の中に、かどはあるの?」と突つ込んでくる。一瞬ながらも、ミノサゴは、岩陰によくいるんだ。だから、そこによまいこと魚やエビを追いかむんだと思うよ」というのが筆者の説明。見

に来た小学生とのやりとりからも、魚の生態について改めて考えさせられることは多い。